

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制 自己点検・評価体制

(責任者名) 鈴木源吾
(役職名) 教授・数理・データサイエンスセンター長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点		自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点		
プログラムの履修・修得状況		構成科目「AI・データリテラシー」の履修者数・履修率・修了者数等については学務課が管理・分析しており、数理・データサイエンスセンターは学務課と連携してこれらのデータを把握し、本教育プログラムの履修・修得状況を定期的に点検する。令和7年度は履修者22名、修了者19名(修了率86%)であり、センターはこの状況を踏まえ、履修率の向上および修得状況の改善に向けた取組を検討・実施する。
学修成果		学生の成績はWebベースのシステムで管理されており、学務課がデータの活用や教員との共有を行っている。数理・データサイエンスセンターはこのデータを参照することにより本教育プログラムの教育効果を確認する。本教育プログラムは令和7年度に開設したものであり、構成科目の修了者が卒業に至るのは令和10年度末以降となる見込みであるため、卒業生が輩出された段階で卒業生調査の結果を用いて、就職後における本教育プログラムの評価を実施する予定である。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度		担当教員は、適時に提出を求める課題および最終レポートを通じて学生の理解度を把握し、必要に応じてフィードバックを行っている。あわせて、令和8年度より全科目を対象とする学生アンケートを実施する方式となり、構成科目「AI・データリテラシー」についても、教育目標(ポリシー)の遂行状況を確認する基本的なアンケートを通じて学生の状況を把握する。担当教員はこれらの結果を踏まえて授業改善に反映する。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度		令和8年度より全科目を対象とする学生アンケートを実施する方式となり、構成科目「AI・データリテラシー」もその対象となる。数理・データサイエンスセンターは、アンケートを通じて把握される学生の評価を、本教育プログラムに対する学生からの推奨度を点検する材料として活用する。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況		様式3⑧に記載の計画に基づき、履修者数・履修率の向上を推進する。構成科目「AI・データリテラシー」は情報学部では必修、事業創造学部・アニメ・マンガ学部では選択として開講しており、特に選択開講学部における履修率を高めるための活動(各学部との内容調整、周知強化等)を実施していく。計画の達成・進捗状況は数理・データサイエンスセンターが毎年度点検する。

自己点検・評価の視点		自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学外からの視点		
	教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	* 本学では2年次・3年次に長期の企業実習である臨地実務実習を実施しており、受入企業によるアンケートを通じて学生に対する企業からの評価を把握している。近年、実習先におけるAI・データ関連の業務・テーマの割合は増加傾向にあり、本教育プログラムで培ったリテラシーが、学生がこうした実習に取り組む際の基盤として役立っているものと考えられる。数理・データサイエンスセンターは、臨地実務実習におけるAI・データ関連の実習の割合等の状況を把握し、本教育プログラムの点検に活用する。 * 本教育プログラムは令和7年度開設であり修了者がまだ卒業に至っていないため、卒業生が輩出された段階で卒業生調査を実施し、修了者の進路・活躍状況を把握する予定である。
	産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	* 本学は、産業界及び地域社会との連携により授業科目の開発や教育課程の編成、円滑かつ効果的な実施と不断の見直しを行うため、学部別に教育課程連携協議会を設けている。同協議会は産業界・地方公共団体等のメンバーから構成され、教育課程の編成や実施評価に対して大学に意見を述べる役割を担っており、その意見を反映して本教育プログラムの改善を実施していく。 * 本学は専門職大学であり実務家教員を多く採用している。企業でAI・データサイエンス技術を活用した経験を持つ実務家教員も在籍しており、こうした教員の意見を反映することで産業界からの視点を本教育プログラムに取り入れる。
	数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	* 科目「リメディアル数学」による苦手意識の解消：数学が苦手な学生の苦手意識を取り除くことが重要であり、情報学部では令和8年度より1年次第1学期に科目「リメディアル数学」を設置し、高校教育の学び直しを通じて、数学への苦手意識がAI・データの学びの楽しさを阻害しないようにしている。 * 学習支援室・数理データサイエンスセンターによるフォロー：本学の学習支援室では、専門学校を含む様々な教育機関で多様な学生を指導した経験のある指導員が、学生一人ひとりの質問に丁寧に対応する体制が確立されている。 * 身近な活用事例による意義づけ：構成科目「AI・データリテラシー」では、会社経営やアニメ・マンガ制作といった学生にとって身近な領域でのAI活用事例を取り上げ、数理・データサイエンス・AIを学ぶ意義を実感できるよう授業を構成している。 * 学生アンケートの活用：令和8年度より実施する全科目対象の学生アンケートを通じて学生の声を把握し、授業に反映することで学ぶ楽しさを高めるよう努める。
	内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること ※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載	* 学生アンケートの活用：令和8年度より実施する全科目対象の学生アンケートを通じて把握した学生の声を授業に反映し、分かりやすさの改善に努める。 * 科目「リメディアル数学」による前提知識の補完：データの読み解き等に必要な基礎的な数学について、リメディアル数学により前提知識のばらつきを補完し、授業内容の理解を助けている。 * 生成AI等の技術発展を踏まえた教育内容の継続的な見直し：社会の変化や生成AI等の技術の発展は著しいため、構成科目「AI・データリテラシー」の授業内容・教材を毎年度見直し、最新の動向を反映することで、教育効果の高い分かりやすい授業となるよう継続的に改善する。